

環境調和型都市デザイン国際コンペティションについて

International Competition on the Theme of Sustainable Urban System Design

竹内 佑一* 馬場 剛**

By Yuichi TAKEUCHI and Tsuyoshi BABA

1. はじめに

20世紀末の世界では、二酸化炭素の排出による地球温暖化、エネルギーの枯渇、発展途上国を中心とした人口爆発と食糧危機、増大する廃棄物処理等の問題が地球規模で顕在化した。これらの問題は、人口や経済活動が集中する都市から大きな影響を受けており、21世紀に更なる人口の集中が予測される都市において、スラム化などの安全・衛生に係わる問題に加え、地球的規模の環境問題に配慮した都市社会のあり方が問われている。

地球規模で拡大する環境問題に対し、1992年の地球サミットでは持続可能な発展を実現するために「アジェンダ21」の合意がなされ、1997年の京都会議（COP3）では二酸化炭素排出の枠組みを定めた京都議定書が成立するなど、たゆまない努力がなされているものの、これらの国際的な合意には、地球的規模の環境問題に対する都市の役割については記述が不十分である。

ガス関連産業最大の国際機関である国際ガス連盟は、このような状況を鑑み、2003年に東京で開催する第22回世界ガス会議東京大会において、特別プログラムの1つとして「Urban Design for a Sustainable Future」をテーマに革新的な都市の提案を求める環境調和型都市デザイン国際コンペティション（以下国際コンペと略す。）を実施することとしている。

本稿は、IBSが第22回世界ガス会議東京大会組織委員会とともに準備を進めている国際コンペの経過と今後の予定について報告するものである。

2. 国際コンペの概要

(1) テーマの設定

国際コンペでは「効率的なエネルギー利用と環境

への影響の極小化が実現されうる、持続的に成長可能な都市」をテーマに設定し、人口10万人以上の実在する都市を対象に「100年後の都市のあるべき姿」と「100年間の変革のプロセス」を提案に含むものとした。

「100年後の都市のあるべき姿」を条件として加えたのは、地球温暖化問題を解決するためには100年単位の長期的な視野を持つ必要があるという理由からであり、「100年間の変革のプロセス」については、100年後の都市のあるべき姿を単に「絵空事」として提案するのではなく、あるべき姿に到達するためにどのような戦略やプロセスが必要なのかを明らかにすることを狙って条件に付加した。

(2) 参加チーム・審査員の選定

a) 参加チーム

国際コンペでは「確かな作品を提出して欲しい」という主催者の意向により、指名競技の形式をとっている。したがって、参加チームの選定が必要であったが、「多様な提案を受けたい」という主催者の思いを尊重して、世界各地からくまなく選定することとした。開催国である日本以外については、地域的なバランスを配慮して、東アジア、南アジア、西欧、東欧、北米、南米から参加国を選定した。

東アジア、南アジアからは多くの人口を有し、工業化の進展とともに環境問題がより顕在化するものと思われる中国とインド、西欧からは環境都市づくりが盛んなドイツ、東欧からは市場経済に体制が移行する中、都市づくりの動向が注目されるロシア、北米からはSmart Growthを推し進めるアメリカと豊かな自然が残るカナダ、南米からは今後の環境政策に注目が集まるアルゼンチンの6地域7カ国から参加チームを選定することとした。

参加チームは、まずチームリーダーを選定し、こ

のリーダーを中心にチームを編成することとした。リーダーの選定は、国際コンペ成功の重要な要素であるとの認識のもと、リーダーに相応しい技量と独創的なアイデアを持ち、次世代の斬新な提案ができる若手（40歳代以下）から選定した。最終的に、海外から7チーム（表-1）、日本から2チーム（表-3）の計9チームを選定した。

表-1 参加チームの一覧（日本以外）

地域	国	チームリーダー
東アジア	中国	李京成
南アジア	インド	Rahul Mehrotra
西欧	ドイツ	Jens Krause
東欧	ロシア	Mikhail Khazanov
北米	アメリカ	John F.Kelly
	カナダ	Sebastian Moffatt
南米	アルゼンチン	Juan Jose Pi de la Serra

b) 審査員

審査員の選定にあたっては、地域・分野・性別の偏りが少なくなるように配慮した。特に分野については、国際コンペの開催趣旨に沿うように都市計画・建築（都市運営）、エネルギー、環境から専門家を招くとともに、今後の都市計画における重要な検討要素である情報通信、生活・文化や、21世紀の環境問題を語る上では避けられない途上国開発について、専門家を招き審査員会を設けるものとした。

表-2 審査員の一覧

専門	国	審査員
都市計画	日本	伊藤滋（東京大学名誉教授）
エネルギー	アメリカ	G. ニール（アメリカガス協会会長）
地球環境	ドイツ	W. U. ワイツゼッカー（前ブッパタル研究所長）
情報通信	イギリス	S. グラハム（ニューキャッスル大学教授）
都市運営	ブラジル	カシオ・タニグチ（クリチバ市長）
途上国開発	エジプト	I. セラギルディン（世界銀行特別顧問）
生活・文化	韓国	申恵境（韓国中央日報社論説委員）

(3) シンポジウム・展示、プレシンポ

国際コンペでは、提案作品から得られる知見を広く世界に発信し、更なる議論を引き出すためにシンポジウム・展示やプレシンポを予定している。

a) シンポジウム・展示

2003年6月の第22回世界ガス会議東京大会会期中に、環境調和型都市をテーマとするシンポジウムを開催する。シンポジウムは2部構成で、6月3日に国際コンペの提案作品を各チームに発表してもらい、6月4日に審査結果の公表と環境調和型都市に

関するパネルディスカッションを行う予定である。また同会議会期中は、国際コンペの提案内容を展示するとともに、環境調和型都市に関連する都市開発事例等の展示を併せて行う。

b) プレシンポ

2002年5月15日、東京ガス(株)本社2Fホールにおいて、「地球時代の新しい環境調和型都市をめざして」をテーマに伊藤滋東京大学名誉教授、月尾嘉男東京大学大学院教授及びコンペ参加チームを招いてプレシンポジウムを行う。当日は「これからの100年の間、都市を持続可能とするためには何が必要か」、「世界各国では今、持続可能な都市づくりに向けてどのような取り組みが行われているのか」といった内容について、講演や報告を行う予定である。

3. 日本チームの選定

国際コンペに参加する日本代表チームを選考するために、国際コンペと同様のテーマを与え、競争競技による国内予選を行った。応募作品数は26件で、北九州や四日市等の工業都市における環境再生をテーマとした作品や、出雲や伊勢など歴史的コンテクストに環境調和を見出そうとした作品、環境問題が複雑化した東京や大阪などのメガロポリスに挑戦した作品等、多種多様な提案が寄せられた。

2000年6月22日に書類による1次審査、同年7月6日に面接による2次審査を行い、優秀作品を提案した2チームを国際コンペに参加する日本代表チームに選定した。

表-3 日本代表チーム

チーム名	代表者
tyo_e. 2003. PRJ	宇野求（千葉大学）
INTER-CELL CITY	日置滋（清水建設(株)）

4. おわりに

国際コンペは、都市と環境の調和という世界的な対応が必要な課題に対し、全世界より英知を結集し、22世紀を見据えて提案していくものである。したがって、より多くの知見や議論を踏まえた提案が求められ、今後はインターネットを活用した意見交流等を図っていきたいと考えている。